

# ローマ人への手紙

## 第11章 (2)

## 必ず知っておくべき神秘（秘密）

25 兄弟たちよ、あなたたちが自分で賢いと言うなら、この神秘を知らないことを私は望まない。この神秘は、異邦人の満ちる数が入るまで、イスラエルの一部が鈍くなったことを意味します。

26 それによって、すべてのイスラエルが救われるのです

...

## 知っておくべき神秘（秘密）

- イスラエルの「硬直」(彼らのメシアであるイエスを信じないこと)は、
- イスラエル全体ではなく、部分的(枝が折れたようなもの)であり、
- その部分も異邦人の「満ちる数」が満たされるまで続きます。
- その数が満たされる時、最終的に「すべてのイスラエル」が救われるのです。

## 全イスラエルとは？

❖ すべての信者であるユダヤ人と異邦人、すなわち教会を指すのか？

- ローマ人への手紙9-11章全体で「イスラエル」という言葉が11回使用されている。

→ 一貫して歴史的なユダヤ民族を指している。

- 25節後半と26節前半の「イスラエル」は異なる意味を持つのか？

- 26節から「イスラエル」という言葉が「突然」再定義されるべきなのか？

⇒ いいえ！

## 26節におけるイスラエルの定義とは？

果たして26節でイスラエルの定義が突然変わることが可能なのだろうか？もちろん、それは可能だが、続く文脈はその変化が納得できないことを示している。ローマ書11:28-29は、ローマ書11章26節の主語が民族的イスラエルであることを明確に示している。彼らは福音に対する敵であるが、神の愛を受ける者であり、先祖たちに対する神の契約的約束のおかげで神の取り消し不能な約束の受益者である。使徒パウロはローマ書11:28-29で、まるでイスラエルが信じるユダヤ人と異邦人で構成されているかのように、イスラエルを霊的な意味で捉え、彼の論証を再表明することはない。むしろ、彼は神の主権と有効な恵みによって、民族的イスラエルが神の救済的かつ選択的な愛の対象であることを再強調している。イスラエルの定義を広げて解釈するための文脈的な保証はどこにも見られない。

(Vanlaningham, "ローマ書のユダヤ民族," in イスラエル民族, 領土そして未来, 241.)

## 全イスラエル？

❖ 歴史的に信じてきた全てのユダヤ人(イスラエルの残りの者たち)？

- 真の信仰を持つ者だけが救われるという救いの真理は、非常に当然な真理です。新たに11章での秘密や神秘について？パウロの驚嘆の賛美の理由は何でしょうか？
- 11回のパウロによる「イスラエル」の用例では、イスラエルを「イスラエルの残りの者」に限定して使ったことはありません。
- 25節において部分的に鈍くなったイスラエルは、意味が通じません。

⇒ NO !

## 全イスラエル？

❖ 「すべてのイスラエル」とは、未来のある時点で生存している  
大多数のユダヤ民族を指します。

- すべてのユダヤ人個人を意味するわけではありません。
- すべてのイスラエルが救われる未来の時点はいつでしょう  
か？

→ 最後の時代

## イスラエル全体の救いと契約の成就

26 それゆえ、イスラエル全体が救われることが記されている。救い主がシオンから来て、ヤコブから不義を取り除く。

27 私が彼らの罪を取り除くとき、彼らに対して私が結ぶ契約がこれであると言われている。これにより、神の約束が実現する。

## イスラエル全体の救いと契約の成就

⇒ **イスラエル全体の救いは、イスラエルに約束された「私の契約」が成就する出来事である。**

- 「私の契約」とはどの契約を指すのか？

⇒ 「**新しい契約**」(エレミヤ書 31:31-34、エゼキエル書 36:24-28、イザヤ書 59:20-21)

- イスラエル全体の救いは、単にイスラエル民族が霊的な救いを受け、宇宙的な教会の一員となることを意味するだけではない。

→ 新しい契約が約束するイスラエルの地の約束、国家的、社会的、物理的、自然的な復興、さらには異邦人の長子として、祭司の国としての本来の身分の回復も含む意義がある。

## イスラエル全体の救済と新しい契約の成就

- 「この節[ローマ 11:27]は、エレミヤ書31章31-34節の新しい契約を指していると言っても過言ではない。新しい契約は、神がアブラハムとダビデに与えた約束を拡張したものである。ここで、私たちは再び契約の原理に立ち戻ることになる。この契約には、土地の約束も含まれている。」(Vanlaningham, 「ローマ書のユダヤ民族」、イスラエル民族、領土、そして未来、245ページ)
- 「もしローマ書11章が旧約の約束に基づいて未来のイスラエルの救済を教えているのなら、旧約の約束と同じ線上にある国家的回復もあるのではないか？...私たちの結論は、ローマ書11章26節が未来のイスラエルの救済を教えているとき、11:27節を考慮に入れるなら、その未来の救済は未来のイスラエル国家の回復と一致するということである。」(Vlach, 教会はイスラエルに取って代わったのか？162ページ)

## それでは？

### ❖ いつ？どのように？

→ パウロのローマ人への手紙11章1-25節までの神学的議論全体を指します。

- メシアを拒否しているイスラエルは、今もなお神の契約の民であるのか？
- なぜイスラエル民族だけが、すべての民族の中で‘全民族’として救われるのか？
- イスラエルが民族的な救いを受ける時はいつなのか？その方法はどのようなものなのか？

全イスラエルか？それともイスラエルの残りの者か？

ローマ11:26 それゆえ**全イスラエル**は救われる。

ローマ9:27 さらにイザヤはイスラエルについて叫び、イスラエルの子孫の数がたとえ海の砂のようであっても、**残りの者**だけが救われると言った。

## 全イスラエルか？それともイスラエルの残りの者か？

- 個人の選択：神の予定と恵みによる救いのための個々の選択：『イスラエルの残りの者』。
- 集団的选择：民族に対して全体的な祝福を約束し、全人類の贖いのための道具的選択。

「パウロはイスラエルに対するこのような集団的选择の中に、個人に対する選択が働いていることを示している。パウロの時代には、この個人的な選択が異邦人に拡大されており、イスラエル中では残りの者に限定されていた。…その救われた者たちは、パウロの時代には比較的少数であったが、最後の日には大いに増加するであろう。」(ムー、ダグラス・J. ローマ人への手紙、753)

⇒ **最後の日にはこの二つの選択が統合される**

## イスラエルを見捨てない理由 1

❖「予知された(‘foreknow’)神の民」であるからです(第2節)

- 接頭辞「fore(前もって)」の意味とは？

- イスラエルが選ばれるに値する行為が行われる前に、神の選びが時間的に先行していたことを意味します。

→「予知された民を見捨てることはできない」というのは、「神が恵みによって前もって選んだ民族を決して拒むことはできない」という意味です。

## イスラエルを回復する理由 2

❖ 神の約束に対する忠実さによるものです。

28b ... 選ばれた者は先祖たちのために愛された者です。

29 神の賜物と召しには後悔がありません。

- 「後悔がありません」→ 取り消すことができない(**Irrevocable** !)
- 「先祖たちのために」

→ 選ばれた理由: 先祖たちに与えられた約束に対する忠実さのためです。

→ 不従順や裏切りは、選びや召しを取り消す理由にはなりません。

## 取り消されない神の賜物。

4 彼らはイスラエルの民であり、養子としての地位、栄光、契約、律法、礼拝、約束が与えられています。

- 「与えられています」→ 現在形の動詞

「ここで使用されている動詞の現在形は、イスラエルが契約と約束を含む特権を現在的に所有していることをパウロが確認していることを示しています。さらに、使徒の彼の同胞に対する熱望が示される前の節の文脈は、その特権が依然として不信の状態にあるイスラエルに属していることを示しています。」(サウシー、ロバート著『進歩的分配神学の主張: 分配神学と非分配神学のインターフェース』248ページ)

## イスラエルを回復する理由 3

❖ **イスラエルの倒れには神の摂理的な働きがあったからです。**

**11 それゆえ、私は言います。彼らは倒れるまでつまずいたのか？ そんなことはありません。**

● 11a: ‘彼らは倒れるまでつまずいたのか？’

→ イスラエルの倒れは決定的で最終的なものですか？

⇒ **いいえ!!**(必ず再び回復します！)、なぜなら？

⇒ イスラエルが倒れた2つの理由

## イスラエルが倒れた2つの理由

### 1. イスラエルの不信による

20 ... 彼らは信じなかったために打ちひしがれ、あなたは信じることによって立っているのです...

### 2. 異邦人の救いのために

11b 彼らがつまずくことにより、救いが異邦人に達し、イスラエルを嫉妬させるのです。

28a 福音によって彼らはあなた方のために敵となったのです。

## イスラエルを回復する理由 3

イスラエルの墮落は、異邦人の救済のために神がイスラエルの目と耳を閉ざすという、神の救済史的かつ摂理的な働きの次元があった。

8 神は今日まで彼らに混乱した心と見えない目、聞こえない耳を与えたと記録されている。

→ イスラエルは異邦人の救済のために、霊的な目と耳が閉ざされるという、ある意味で犠牲的な役割を担っていた。

→ 異邦人はイスラエルに対して、別の次元の福音の負債を抱えている。

→ **神の公正**は、全異邦人の救済のために、その御子であるイスラエルの民のこの救済史的な役割が完了したとき、当然にその民の救いと回復を求める。

## 福音が異邦人に届いた理由は？

11b 彼らがつまずいたことで救いが異邦人に届き、イスラエルを妬ませるためである。

13 私は異邦人であるあなたたちに言います。私は異邦人の使徒であることを誇りに思っています。

14 これは、私の肉の兄弟たちを少しでも妬ませて、彼らの中から何人かを救うためです。

→ 異邦人に救いが届いたもう一つの目的：

‘イスラエルを妬ませて、彼らを神に還らせるため’

→ 教会のもう一つの本来的な/存在論的使命、特に終わりの時に。

## イスラエルが回復したら？その結果は？

12 彼らのつまずきが世界の豊かさとなり、彼らの失敗が異邦人の豊かさとなるなら、彼らの完全な回復はどれほど大きな富をもたらすでしょう！

**(how much greater riches will their full inclusion bring!)**

15 彼らを見捨てることが世界の平和をもたらすなら、彼らが受け入れられることは死者の中からの復活でなければなりません。

⇒ 国々における霊的な大 **revival** と大収穫、主の再臨と復活

# イスラエルの回復は？その結果は？

ジョン・カルヴァン

「神の恵みによるユダヤ人の回復は、全ての異邦世界に復興と真の宗教の普及を引き起こすだろう」(ローマ書の講解, p 425)

- 旧約聖書

イザヤ書 27:6

「その日、ヤコブの根が確立され、イスラエルの芽が生え、花が咲く。その実は地全体(the whole world, the entire earth)を満たすであろう」

→ **イスラエルの初穂、長子としての祭司的な位置**(16節)

# 代表性の原則

**代表性の原則:** 神が選ばれた少数は神の前で全体を代表します。

- 長子(初穂、最初の収穫、最初の家畜)
- 祭司
- ‘残りの者’(種、seed)

→ 代表性を持つ少数が神の前に完全に捧げられると、彼らを通じて全体が神の前で祝福を受けることになります。

## ❖ 聖書の例

- イエス・キリスト
- アブラハムと神との対話(創世記 18:22-33、50-45-40-30-20-10)
- 初穂の原則

## イスラエルと代表性の原則

1. イスラエルは、全ての国々の長子、祭司、初穂として、全ての国々を代表しています。

→ イスラエルが神の前に完全に捧げられると(神との関係が完全に回復されると)、全ての国々に神の祝福(国々の霊的な大 **revival** と大収穫)がもたらされます。

12 彼らのつまずきが世界の豊かさとなり、彼らの失敗が異邦人の豊かさとなるなら、彼らの満ち足りがどれほどのものになるのでしょうか！

15 彼らを捨てることが世界の和解となるなら、彼らを受け入れることは死者の中からの復活でないとしたら、何がそうなるのでしょうか。

# イスラエルの残り者と代表性の原理

2. 'イスラエルの残り者'はイスラエル民族全体を神の前で代表します。

→ 正しい少数派、'イスラエルの残り者'は神との契約の有効性の証拠であり、将来的にイスラエル民族全体の救いと回復を保証し担保します。

- ローマ 11:1-5
- ローマ 16a - 初穂の穀物粉が聖なるものであるように、パンの塊もまたそうである...
- イザヤ 6:13b - ... クリとオークの木が切り倒されても、その根は残っているように、聖なる種がこの地の根であると言われました。

## 接ぎ木の比喻 (17-24節)

### ◆異邦人の救いのメカニズム:

どのように異邦人はキリストを信じることでアブラハムに与えられたすべての契約的祝福に参加できるのか？

### ◆キリストにおける諸国と異邦人の関係

### ◆イスラエルの折れた枝の再接ぎ木

## 接ぎ木の比喻

17 さらに、いくつかの枝が折れているが、あなたはその中で野生のオリーブの木であり、接ぎ木されて真のオリーブの木の根から栄養を共に受ける者となったのです...

- ❖ **真のオリーブの木**(栽培されたオリーブ)対 **野生のオリーブの木**
  - **根**: アブラハムの契約の祝福(最終的にはメシアであるイエス・キリスト)
  - **幹**: 聖書的ユダヤ教 / 新約のメシア的ユダヤ教
  - **折れていない主枝**: イスラエルの残りの者たち、メシア的ユダヤ人
  - **折れた主枝たち**: メシアを拒否したユダヤ人
  - **接ぎ木された野生のオリーブの木の枝**: 異邦人のクリスチャンたち

## 異邦人の救い

### ❖ 異邦人たち

- イエス様以前: 元々は野生のオリーブの枝

→ 良い実を結ぶことができなかった。

'イスラエルの国の外で、'契約の外にいる者、'神のない者'(エペソ2:12)

- 本物のオリーブの木にキリストを通して「本性に逆らって」接ぎ木さる。

24 あなたは元の野生のオリーブの木から切り取られ、本性に逆らって良いオリーブの木に接ぎ木されました。

- 野生のオリーブの木に接ぎ木されるために一部の元の枝が切り取らる。

19-20a それならあなたの言うことは、枝が切り取られたのは私が接ぎ木を受けるためだと言うでしょう...その通りです。

## イスラエルと異邦の相互関係(‘一つの新しい人’)

### ❖ 接ぎ木されたオリーブの枝

→ 根から上がる栄養を原木と共に受け取り、良い実を結ぶ

異邦人であるあなたが彼らの中に接ぎ木され、真のオリーブの根の栄養を共に受ける者  
となったのです...(ローマ 11:17)

→ ユダヤ人たちと共にアブラハムの契約の共同相続者、共同の後継者となる

これは異邦人が福音によってキリスト・イエスの中で共に相続者となり、共に一体となり、  
共に約束に参加する者となることを意味しています(エペソ 3:6)

### ● 接ぎ木された真のオリーブの木

⇒ キリストの中でユダヤ人と異邦人が結束した‘一つの新しい人’(エペソ 2:12-15)

## 福音の拡張された理解

- 接ぎ木の比喻 → 福音と私たちの救いに対する拡張された理解

→ 私たち異邦人の救いは、イスラエルの真のオリーブの木に接ぎ木されることによって実現する。それは、ユダヤ人の王、イエス・キリストを私たちの救い主として受け入れるときに成し遂げられる。

→ この観点から、福音は、異邦人がイスラエルに最初に約束されたアブラハムのすべての契約の祝福を共に享受するための神の方法と見ることができる。

「イスラエルの追放された者を集める主なる神は言われる、私はすでに集めた民の他にも、さらに集めて彼に属させる。」(イザヤ 56:8)

→ これを達成するために、イスラエルの一部は「犠牲的役割」を担うために折られた。

→ 諸国はイスラエルに対して負った「福音の借金」。

## 異邦人クリスチャンへの警告

**18, 20b** その枝を誇ってはいけない。たとえ誇ったとしても、あなたが根を支えているのではなく、根があなたを支えているのです…。高ぶった心を持たず、むしろ恐れなさい。

**21** 神が元の枝も惜しまなかったのだから、あなたも惜しまないでしょう。

**22** それゆえ、神の慈しみと厳しさを見なさい。つまりく者には厳しさがあり、もしあなたが神の慈しみに留まるなら、その慈しみがあなたに与えられるでしょう。そうでなければ、あなたも切り取られることになるでしょう。

## 異邦人クリスチャンへの警告

→ 切り取られた枝であり、現在も不従順であるイスラエルに対して高ぶった心を持つてはいけません。

1. 彼らが切り取られたのは、私たちが接ぎ木されるために神の摂理的な計画があったからです。

→ 高ぶった心ではなく、むしろ借りがある心を持たなければなりません。

2. 私たちも信じなければ切り取られるからです。

⇒ 置き換え神学への警告！



## イスラエルの再接木

23 彼らも信じないままでいれば、再接木されるでしょう。これは、彼らを接木することができるのは神に他ならないからです。

24 あなたは、野生のオリーブの木から切り取られ、逆らって良いオリーブの木に接木されました。元の枝であるこれらの人々は、さらに自らのオリーブの木に接木されるのはどれほどでしょうか。

イエスを拒否していたユダヤ人たちは、神の時(異邦人の満ちる数)の中で、聖霊の力、聖霊の爆発的な注ぎによって信仰を回復します → 再接木

→ **イスラエルの終末論的な霊的覚醒と民族的悔い改め**(ゼカリヤ書12章)

→ それによって、**全イスラエルが救われることになります。**

# 人類の救済史: 神の振動子

## 1. イスラエルの選び

## 2. イスラエルの墮落を通じた異邦人の救い

## 3. イスラエルの終末的な救いと回復

- 11-12節:「イスラエルの墮落」-「異邦人の救い」-「イスラエルの満ち満ち」
- 15節:「イスラエルの見捨て」-「世界の和解」-「イスラエルの受け入れ」
- 17-23節:「根の枝の切断」-「オリーブの木の枝の接ぎ木」-「根の枝の再接ぎ木」
- 25-26節:「イスラエルの硬い心」-「異邦人の満ち満ち」-「全イスラエルの救い」
- 30-31節:「イスラエルの不従順」-「異邦人に対する神の憐れみ」-「イスラエルに対する神の慈悲」

## なぜ神はこんなに？

30 かつてあなたたちは神に従わなかったが、イスラエルが従わなかったことで、今や憐れみを受けたのです。

31 このように、これらの人々が従わないのは、あなたたちに与えられた憐れみによって、彼らもまた憐れみを受けるためです。

32 神がすべての人を不従順の中に閉じ込めたのは、すべての人に憐れみを施すためです。

イスラエルの選び、そして選ばれた民のつまずきを通しての異邦人の救い、異邦人の救いの後に最後に選ばれた民の救いと回復(神の『揺り動かし』)という人類の救済計画は、イスラエルであれ異邦人であれ、全人類の救いが人間の不従順の中でただ神の憐れみによってのみ実現されるという神の深い計画です。

## • 賛美歌

33 神の知恵と知識の豊かさは深い。彼の判断は測り知れず、彼の道は見つけることができない。

34 誰が主の心を知っているのか、誰が彼の顧問になったのか。

35 誰が主に先立って与え、返されることがあるのか。

36 すべてのものは主から出て、主によって成り立ち、主に帰する。彼に永遠の栄光があるように。アーメン。

## ローマ人への手紙第11章の主要なテーマ

1. メシアを拒絶した結果、イスラエルは神の契約の民として旧約における位置が無効になったのか？（1、29節）。もし契約の民としての位置が無効になっていないなら、その証拠は何か？（1節下-5節）
2. メシアを待ち望んでいたイスラエルがキリストを拒絶した理由は、彼ら自身の不信仰（20節）以外に、神が全人類の救いのために持っていた摂理的な意図や計画は何か？（11、25、28、32節）
3. この関連で、パウロが述べている教会が必ず知っておくべき秘密、または神秘とは何か？（25節）もしイスラエルの「つまづき」が最終的なものでないなら（11節）、イスラエルの最終的な民族的運命はどうなるのか？（23-24、26-27節）
4. キリストにおけるユダヤ人と異邦人の関係は何か？（17-19節）
5. イスラエルの民族的救いと旧約に約束された新しい契約の成就にはどのような関係があるのか？（26-27節）
6. なぜ神は、最初に選ばれた契約の民であるイスラエルのつまづき、これを通じた全異邦人の救い、そして最後にイスラエルの回復と救いという特別なプロセスを通じて全人類の救いを実現しようとされるのか？その背後にある神の意志は何か？

## ローマ書第11章の主要なテーマ

**第一に**、初めに来られたメシアを拒否したことによる「つまずき」によって、イスラエルは神の契約の民として旧約における位置を失ったのでしょうか？もしその契約の民としての地位が失われていないのなら、その証拠は何でしょうか？

- メシアを拒否しているイスラエルは、依然として神の契約の民です。神とイスラエルとの契約関係は今も有効であり（1節）、彼らの民族的選び、使命、特別性（賜物）は失われていません（29節）。
- これは、彼らの先祖に対する神の愛と契約に対する誠実さによるものです（28節）。
- イスラエルとの契約が有効である証拠は、たとえ少数であってもキリストを信じる「イスラエルの残りの者」の存在にあります。

## ローマ書第11章の主要なテーマ

**第二に**、メシアを待ち望んできたイスラエルがキリストを拒否した理由は、彼ら自身の不信だけではなく、全人類の救いのために神の持つ摂理的な意図と計画があったのか？

- イスラエルがそのメシアを拒否した「つまずき」は最終的なものではない（11節）。
- その理由は、イスラエルのつまずきには彼ら自身の不信があったが（20節前半）、その背後には全ての異邦人の救いのために神の主権的、摂理的な意図が隠されていたからである（11節後半、8節、19-20節前半、25節、28節前半）。
- また、福音が異邦人に伝えられたのは、異邦人の救いを目的とするだけでなく、異邦人を通してイスラエルを嫉妬させ、最終的にイスラエルを救うための目的もあった。ここに、イスラエルを嫉妬させるために異邦教会が存在する意義が見出される。

## ローマ人への手紙第11章の主要なテーマ

**第三に**、パウロが言及している教会が必ず知っておくべき秘密とは何か？もしイスラエルのつまずきが最終的なものではないとすれば、イスラエルの最終的な民族的運命はどうなるのか？

- 神の秘密は、異邦人の満たされる数が満ちるまで、イスラエルの一部が堅くなり、彼らのメシアに対する目が覆われているということである（25節）
- しかし、異邦人の満たされる数が満ちると、キリストを拒んで切り離された原枝、信仰のないユダヤ人たちは堅さが解かれ、信仰を回復し、彼らが切り離された真のオリーブの木に神の力によって再接ぎ木されることになる（23-24節）。
- その結果、全イスラエルが救われることになる（26節）。ここでの「全イスラエル」とは、未来のある時点で生存している全民族規模のユダヤ人を指している。

## ローマ人への手紙第11章の主要なテーマ

第四に、キリストにおけるユダヤ人と異邦人の関係は何でしょうか？

- キリストにおける異邦人とユダヤ人の関係は、接ぎ木の比喻によって理解されることができます。
- 本来は野生のオリーブの木であった異邦人は、キリストを信じることによって真のオリーブの木に接ぎ木され、
- キリストを信じるユダヤ人と共に、根であるアブラハムからの契約の祝福を共に受けることとなります（17-19節）。このように、彼らは良い実を結ぶ「契約の共同体」となり、エペソ人への手紙の表現を借りれば「一つの新しい人」となります（エペソ2:15）。
- しかし、元の枝と接ぎ木された枝の間、つまりキリストにおけるユダヤ人と異邦人の間での機能的および役割的な区別がなくなったわけではありません。それぞれは神の救済史的な目的と計画の中で固有の機能と役割、アイデンティティを維持しています。

## ローマ書第11章の主要なテーマ

**第五に**、イスラエルの民族的救済と旧約に約束された新しい契約の成就にはどのような関係があるのでしょうか？

- 全イスラエルが救われる時、それは旧約のエレミヤ書31章やエゼキエル書36章においてイスラエルの民に成就することが予言されている新しい契約がついに民族的、そして文字通りイスラエルに成就される時です。
- この時、ユダヤ人の救済はもちろん、新しい契約の成就と共に約束されたイスラエルの国家的回復も同時に起こるでしょう。

## ローマ書第11章の主要なテーマ

**第六に**、なぜ神は最初に選ばれた契約の民イスラエルの墮落を経て、そこから全ての異邦人の救いをもたらし、最終的にイスラエルの回復と救いを実現しようとするのか？その背後にある神の意図は何か？

神が全人類を救済するために、最初に選ばれた契約の民イスラエルの墮落を通して全ての異邦人の救いをもたらし、最後にイスラエルの回復と救いを実現するという理解しがたい過程を経る理由は、イスラエルと異邦人の両方を不従順の状態に閉じ込め、彼ら自身の義ではなく、ただ神の恵みによって全人類を救おうとする神の意志を成就するためである。(30-32節)

イスラエルにおける神への現在の敵対感は、福音に対する一般的な拒否として現れていますが、これは神の計画の一部です。なぜなら、これは神が人々の心を堅くする働きの結果だからです。しかし、この堅さは、異邦人が「入ってくる」ことを可能にし、またイスラエルを刺激して悔い改めさせるために、さらには一時的なものであるように計画されています。神のイスラエルへの約束に対する誠実さは、この歴史的かつ救いの過程を通じて明らかになります。神の誠実さは、現在ではイスラエルの残された者たちを保護する形で現れています。しかし未来においては、神のイスラエルに対する揺るぎない献身が、その民族全体の救いを通じて劇的に示されることでしょう (Moo, Douglas J. The Epistle to the Romans, 728-29)

## 私たちは今、どうすべきか？

- 私たちはローマ人への手紙11章でパウロが語る秘密を知る必要があります。
  - 主の心を理解し、全ての国々とイスラエルを包み込む神の人類救済計画と経綸を学ぶことです。
- 私たちはイスラエルの終末論的回復に関する聖書の真理と教えに基づき、現代と世界、特にイスラエルを中心に神が行っていることを見極めなければなりません。
- 私たちの国際教会は、ユダヤ人が彼らのメシアであるイエス様に帰り、彼らの契約の根に「再接ぎ木」されるように手助けする責任があります。

「誰が主に先に与えて、返してもらうことができるだろうか？」(35節)

→ **これは私たちの教会が使命に呼ばれる神の招きです！**

ありがとうございます。

プレゼンテーションにご参加いただき、心より感謝申し上げます。  
皆様のご意見や質問をお待ちしております。